

人と自然の共存を目指す GEF-SATOYAMA プロジェクトが始動！

(2015年10月1日：東京) コンサベーション・インターナショナル・ジャパン (CI ジャパン)、国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)、地球環境戦略研究機関 (IGES) が提案した GEF-SATOYAMA プロジェクト (資料 1) が、7月末に地球環境ファシリティ (GEF) により正式に承認されました。このプロジェクト実施チームの覚書が9月1日に国連大学 (東京都渋谷区) にて調印され、4年間のプロジェクトが本格始動しました。その第一歩として、インドビルマ生物多様性ホットスポット (インドシナ半島) を対象に、本プロジェクトが支援する現地型プロジェクトを10月1日より公募します (募集期間は11月18日まで)。1件に対する支援額の規模は最大10万ドルで、実施期間は3年間です。支援を受けるプロジェクトは、現地での成果に留まらず、GEF-SATOYAMA プロジェクトの他の活動を通じて、世界中にある、里山のように人と自然が共存する環境の保全に貢献する取り組みとなることが期待されます。同様の公募を、「熱帯アンデス」、「マダガスカルおよびインド洋諸島」それぞれの生物多様性ホットスポットでも順次行います。

GEF-SATOYAMA プロジェクトでは、里山のように人と自然が共存する環境を対象に、伝統的知識を取り込み、ジェンダーへの配慮を含めステークホルダーの幅広い参画を受けて実施されるこれらの環境の保全、再生、創成に関わるプロジェクトを募集します。生物多様性の保全と人々の生活の発展が共存することを具体的に示すことで、生物多様性条約の「愛知目標」の達成に貢献するとともに、「国連生物多様性の10年」や「持続可能な開発目標 (SDGs)」を目指す、自然と共存する持続可能な社会の実現を国際的に進めるためのモデルを形成していきます。

公募の詳細は、下記 URL をご参照ください (応募は英語でのみ受け付けます)。

<http://www.conservation.org/global/japan/Pages/GEFSatoyama2015.aspx>

本件に関するお問い合わせ

CI ジャパン

GEF-Satoyama プロジェクト
マネージャー
名取洋司
TEL : 03-5315-4790
email ynatori@conservation.org

UNU-IAS

国際 SATOYAMA イニシアティブ
プログラム・アソシエイト
天野陽介
TEL : 03-5467-1212
email isi@unu.edu

IGES

自然資源・生態系サービス領域
研究員
高橋康夫
TEL: 046-855-3838
email: yasuo.takahashi@iges.or.jp

GEF-SATOYAMA プロジェクト実施チームの議長・一般社団法人コンサベーション・インターナショナル・ジャパン (CI ジャパン) 代表理事・日比保史より：

「GEF のプロジェクトを形成して実施するという、生物多様性分野では日本の法人として初めての挑戦に強力なパートナーと共に取り組めることを、光栄に思っています。人と自然が共存する環境を保全、再生、創成していくことは、CI が目指す持続可能な社会を実現するために重要で、私たちのスローガン「自然を守ることは、人間を守ること」を具体的に表したひとつの形と考えます。今回の募集対象地域であるインドビルマ生物多様性ホットスポットは、広大な淡水生態系との持続的な共生の伝統を持つ地域でもあり、他の地域にとっても有益な先進事例となるプロジェクトの提案を期待しています。」

公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES) 東京事務所長・中島慶二より：

「IGES は、UNU-IAS と連携して IPSI 及びその協力活動を支援する中で、2013 年には IPSI 協力活動のひとつとして里山保全支援メカニズム (SDM) を立ち上げ、世界各国の IPSI メンバー団体の現地での活動に小規模な資金供与を行っています。SDM の実施も今年で 3 年目を迎える中、人と自然が共存する環境における生産物の付加価値向上や先住民の生物多様性保全への参加の促進等、実施団体の優良事例を扱う中で非常に重要な知見が得られつつあります。今回の GEF-SATOYAMA プロジェクトが IPSI や SDM を始めとする様々な協力活動の成果に基づいて展開されることを歓迎するとともに、IGES のこれまでの経験をもとに GEF-SATOYAMA プロジェクトの成功に向けて引き続き貢献していきます。」

国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) 所長・竹本和彦より：

「2010 年、SATOYAMA イニシアティブが生物多様性条約第 10 回締約国会議 (COP10) において採択されて以来、国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) はその理念の実現に向けて様々な取り組みを行ってきました。中でも、COP10 において設立された SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) の事務局として、国際的な会合の開催や研究活動を通じ、メンバー同士の連携の推進、世界各地より関連するケーススタディーの収集と発信などに取り組んできました。今回の GEF-SATOYAMA プロジェクトは、そうした活動の大きな成果であるとともに、IPSI の活動をスケールアップするすばらしい好機と考えています。日本からはじまる新しいタイプの GEF プロジェクトとして、SATOYAMA イニシアティブのアプローチを世界に発信していくため、CI ジャパンをはじめとするパートナーと事業に取り組んでいきます。」

地球環境ファシリティ (GEF)、アジア地域コーディネーター、渡辺陽子氏より：

「GEF は、生物多様性条約の資金メカニズムとして、生物多様性の保全と持続的利用を世界 160 か国以上で推進・支援してきました。これら既存の GEF プロジェクトや IPSI の活動を基盤に、自然保護区を越えた生産セクターを含めたランドスケープ上で、さらに如何に危機にある生物多様性の保全・持続的な利用を推進していけるか、この GEF-SATOYAMA プロジェクトが、その革新的なアプローチの実施と知見の共有に貢献できればと願っています。」

環境省自然保護局 自然環境計画課 生物多様性地球戦略企画室 室長・中尾文子氏より：

「環境省は、2010 年の COP10 以来、国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) と共に、SATOYAMA イニシアティブを通じた「社会生態学的生産ランドスケープにおける生物多様性と生態系サービスの保全及び持続的な利用による人間の福利の向上」を推進してきました。

生物多様性の保全にとっては、原生的な自然の保護のみならず、農地や二次林など、人間活動の影響を受けて形成・維持されている二次的自然環境の保全も同様に重要です。SATOYAMA イニシアティブは、人間と自然が相互に便益を得られる関係を構築し、自然のプロセスを損なうことなく社会経済活動（農業、漁業、林業等）を維持、発展させることを目指しています。

この度、UNU-IAS、GEF、CI ジャパン、そして IGES との連携による GEF-SATOYAMA プロジェクトの開始を大変喜ばしく思うと共に、本プロジェクトによる SATOYAMA イニシアティブの現地活動のスケールアップ及び愛知目標への貢献を大いに期待します。」

資料1 プロジェクト概要

～GEF-SATOYAMA プロジェクトとは～

GEF-SATOYAMA プロジェクト（正式名：Mainstreaming Biodiversity Conservation and Sustainable Management in Priority Socio-ecological Production Landscapes and Seascapes）は、人の営みが続けられる世界の里山・里海環境において、生物多様性の保全と持続可能な利用を促進することにより、自然と共生する社会の実現を目指します。

そのために、本プロジェクトでは、次の3つの分野に取り組みます：

1) 現場型のプロジェクト支援

生物多様性が豊かでありながらも危機に瀕している世界の3つの生物多様性ホットスポット（「インドビルマ（インドシナ半島）」、「マダガスカルおよびインド洋諸島」、「熱帯アンデス」）でプロジェクトを公募します。今回の公募はその第一弾です。民間セクターとの連携や、伝統的知識の保存や利用も視野に入れながら、住民の生活向上と生物多様性の保全と持続可能な利用の両立を強化するプロジェクトを支援します。

2) 知見の創出

持続可能な社会に向けた知見を提供することを目指します。生物多様性と人々の生活が相乗効果を生みながら共存する環境を創り、次の世代に伝えていくため、様々な主体の政策や計画の立案に役立つ地図の作成やケーススタディーの分析などの成果物を生み出していきます。

3) 能力向上

SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ（IPSI）や国連環境計画、生物多様性条約事務局が開催するワークショップなどを通じて、里山のように人と自然が共存する環境の重要性の認知を広げ、持続可能な社会の構築へ向けた課題に対する対応能力を強化します。現場型プロジェクトの実施者には、対象地域のレジリエンスを高めるツールの研修も行います。さらに、本プロジェクトが生み出す知見は、様々な機会を積極的に活用して発信していきます。

上記1) から得られる知見は2) により他者でも使える情報にまとめられて3) で普及されたり、3) の研修により1) の活動がより効果的になったりと、1) ～3) は相互に関連しています。

このプロジェクトは、全世界のパートナーとの幅広い連携の下に実施されることも特徴です。日本政府が現在第一の資金拠出国である国際信託基金である、地球環境ファシリティ（GEF）の資金を使い、開発途上国のパートナーと連携し、日本の組織がプロジェクトを実施します。

GEFの資金200万ドルを核に、実施チームの3組織の自己資金に加えて国連開発計画や生物多様性条約事務局など、本プロジェクトの目的に賛同する世界のパートナーから合計635万ドルの共調拠出を受けて実施されます。

資料2 組織紹介

地球環境ファシリティ (GEF) :

GEF は、生物多様性条約や国連気候変動条約などの主要な国際環境条約の資金メカニズムです。日本を含めた先進国は、GEF への投資を通じて、途上国を支援しています。GEF は、1991年に独立した国際信託基金として成立され、世界 165 カ国で 4000 件以上のプロジェクトを実施し、合計 150 億ドルの資金を投資してきました。

GEF ウェブサイト : <http://www.thegef.org>

一般社団法人コンサベーション・インターナショナル・ジャパン (CI ジャパン) :

CI ジャパンは、持続可能な社会の実現を目指す、国際 NGO コンサベーション・インターナショナル (CI) の日本法人です。自然の恵みを将来世代につなぐため、科学とパートナーシップ、現場での実践を柱に、31 か国で約 1000 名のスタッフを有する CI ネットワークと密接に連携し、「自然を守ることは、人間を守ること」を掲げて政策提言、現地プロジェクト実施、普及啓発に取り組んでいます。

CI ジャパンウェブサイト : <http://www.conservation.or.jp>

国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) :

UNU-IAS は、サステナビリティとその社会的・経済的・環境的側面に注目しながら、政策対応型の研究と能力育成を通じて、持続可能な未来の構築に貢献することを使命とする研究・教育機関です。UNU-IAS の活動には、「持続可能な社会」、「自然資本と生物多様性」、「地球環境の変化とレジリエンス」という 3 つのテーマがあります。また、国連における政策決定や議論に貢献することにより、国際社会に奉仕しています。東京を拠点としているほか、オーストラリアのダーウィン、ドイツのボン、石川県金沢市の 3 つの地域にユニットを置いています。

UNU-IAS ウェブサイト : <http://ias.unu.edu/jp/>

公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES) :

IGES は、アジア太平洋地域における持続可能な開発の実現に向け、国際機関、各国政府、地方自治体、研究機関、企業、NGO 等と連携しながら、気候変動、自然資源管理、持続可能な消費と生産、グリーン経済などの分野において実践的な政策研究を幅広く行っています。1998 年、日本政府及び神奈川県の実験により設立。本部は神奈川県葉山町に所在し、約 100 名の研究者を擁し、その約 3 分の 1 は外国籍です。関西 (兵庫県)、北九州、北京、バンコクの各センター・事務所と共に、グローバル及びアジア太平洋地域のネットワークを生かした戦略研究を展開しています。

IGES ウェブサイト : <http://www.iges.or.jp>

SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) :

SATOYAMA イニシアティブは、自然共生社会を実現することを目指し、国連大学と日本政府が共同で提案した国際的なイニシアティブです。日本の里地里山のような地域 (社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープ) の保全と持続可能な利用を通じて、世界規模での生物多様性の保全と自然共生社会の実現を目指すものです。SATOYAMA イニシアティブ国際パートナーシップ (IPSI) は、この理念を実現するために設立された国際的なパートナーシップであり、UNU-IAS が事務局を務めています。現在 172 の団体が加盟しており、GEF、CI ジャパン、IGES 及び環境省は、いずれも IPSI 設立以来の主要なメンバーです。

IPSI ウェブサイト : <http://satoyama-initiative.org/ja/>